

日時： 2025 年 9 月 10 日（水） 12:05～12:55

場所： 日本原子力学会 2024 年秋の大会 N 会場（AIM 3F 313 会議室）

参加者： 40 名程度

【表彰】

1. 令和 7 年度炉物理部会賞受賞者紹介、表彰

資料 63-01 を用いて、部会長より令和 7 年度炉物理部会賞の表彰が行われた。令和 7 年度は以下の奨励賞 2 件、貢献賞 1 件が授与された。授賞式に参加されなかった受賞者に対しては賞状および副賞を輸送する。

件名：固有直交分解を用いた local/global 反復法に基づく SP_3 輸送計算手法の開発

受賞者：伊藤 雅人（株式会社 原子力エンジニアリング）

件名：Desing study of lead-bismuth cooled metallic fuel RFBB start-up core and the transition phase analysis

受賞者：Xucheng Zhao（国立大学法人 東京科学大学）

件名：炉物理教科書（初級編）の執筆・発刊

受賞者：炉物理教科書（初級編）執筆チーム

千葉豪、卞哲浩、山本章夫、西山潤、竹田敏、小林千将、遠藤知弘、山本健土、竹澤宏樹、佐藤駿介、相澤直人、山中正朗、左近敦士、山根祐一

吉岡研一、日野哲士、小池啓基、宇根崎博信、亀山高範、馬野琢也、三澤毅

【審議事項】

2. 令和 7 年度予算執行状況及び 8 年度予算案

資料 63-02 を用いて、財務小委員会担当幹事より、令和 6 年度予算執行状況と令和 7 年度予算案について報告され、承認された。

Q 実績について学会事務局と合意が取れているのか？

A 炉物理部会で確認した後で学会事務局に報告予定。

C 計算部会の経験から、予算案を超えなければ、項目の変更は大きな指摘は受けないと思われる。

A 今後、本部と連携をとっていく。

3. 2026年春の年会企画セッションについて

資料 63-03 を用いて、学術交流小委員会担当幹事より、2026年春の年会で「JENDL-5.1の開発状況と炉物理研究の核データ利用における議題」をテーマに核データ部会と合同セッションを行うことが提案され、承認された。

【報告事項】

4. 第56回炉物理夏期セミナー開催報告

資料 63-04 を用いて、セミナー小委員会担当幹事より、第56回炉物理夏期セミナーの開催報告がされた。

Q 観光業の認可はどこから指摘されたものか？

A 今年本部に指摘が届いたもの。本部でも検討中。各部会に観光業が疑われる業務（宿泊費を集金し宿泊施設への支払い、有料の移動手段の手配など）の実施の禁止について通達が出たわけではない。

C 知ってしまったので、コンプライアンス上できないという位置付け。

5. 炉物理部会賞細則の改訂について（貢献賞推薦）

資料 63-05 を用いて、部会長より炉物理部会賞細則について、貢献賞の推薦条件を2025年8月27日の運営小委員会決定で変更されたことが報告された。

6. 炉物理部会の役割検討WGアクションプランの実施状況

資料 63-06 を用いて、部会長より役割検討WGにて策定したアクションプランの実施状況について報告された。

7. SNS活用検討タスクチーム活動報告

SNS活用検討タスクチームの活動状況についてタスクチームリーダーを務める相澤助教より報告された。

8. PHYSOR2026への積極的な参加呼びかけ

PHYSOR2026のTECHNICAL PROGRAMME COMMITTEE CHAIRを務める遠藤准教授からPHYSOR2026への積極的な投稿が呼びかけられた。特に、優秀講演賞にエントリーした学生や若手研究者・技術者は是非投稿してほしい、指導教官や上司も後押ししてほしい旨が呼びかけられ。

以上